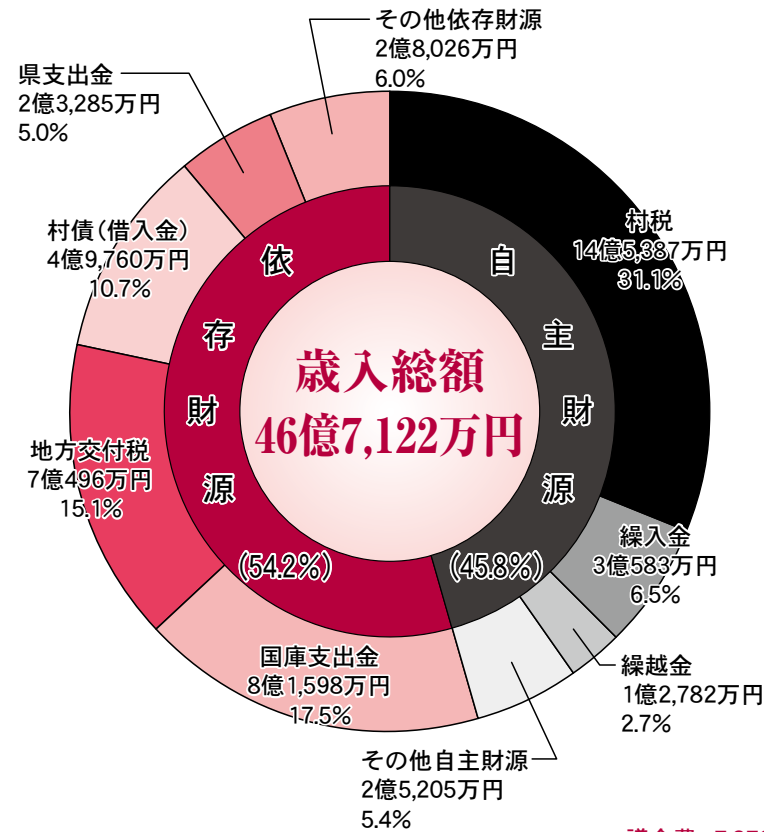


平成30年度
決算認定
賛成10・反対1

公共施設の老朽化に伴い 土木費に12億3千万円

一般会計歳出
45億4,141万円
(前年度比3.3%減)



◆ 監査委員審査意見 ◆

審査結果

- ① 財政運営及び資金収支は効率的に行われており、基金も設置目的に従って運用されている。
- ② 経常収支比率は昨年より4.6%減の98.6%になった。今後も経常経費の削減に努めること。
(本来は75%以下が望ましい)
- ③ 法人分固定資産税の復興特区免除などにより、自主財源比率は昨年度より7.4%減少した。

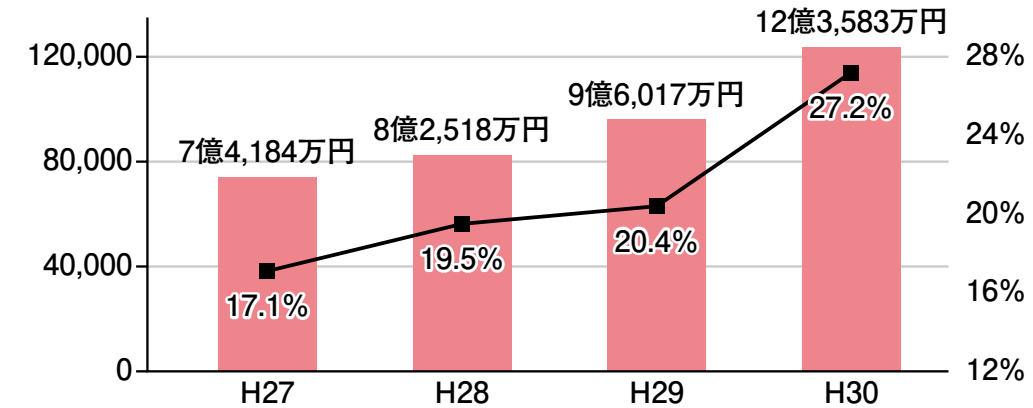


村営住宅改修



村道の改良

◎ 土木費の決算額に占める割合の推移



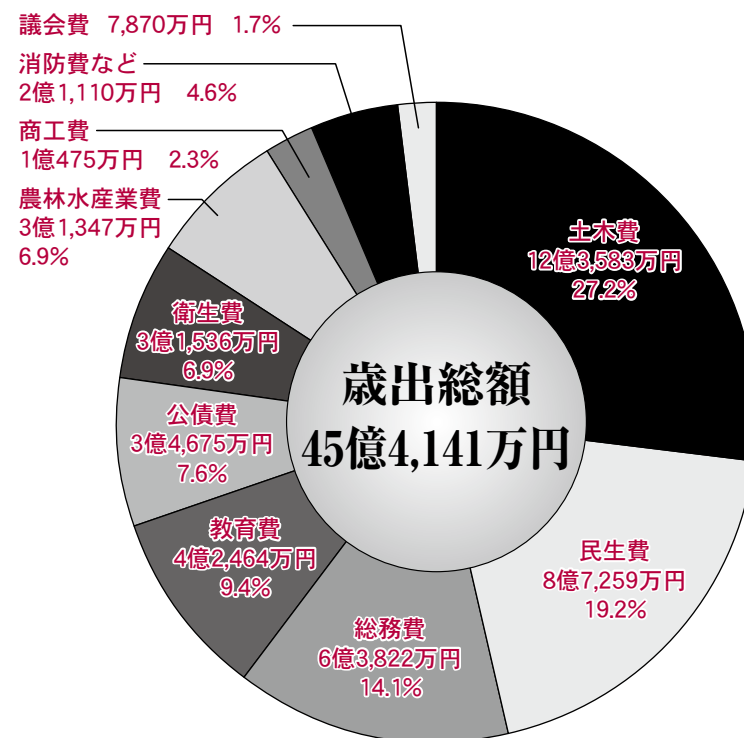
◎ 各種会計別決算

会計別	歳入決算額	歳出決算額
特別会計		
国民健康保険事業	5億1,303万円	4億9,258万円
下水道事業	2億5,591万円	2億5,193万円
介護保険事業	5億9,643万円	5億7,963万円
戸別合併処理浄化槽	3,469万円	3,411万円
後期高齢者医療	5,525万円	5,443万円
宅地造成事業	7,503万円	7,502万円
水道事業	2億4,107万円	2億2,525万円

◆ 監査委員審査意見 ◆

改善点・要望点

- ① 平成30年度一般会計繰越未納額は8,540万円と昨年度より379万円増額している。県地方税滞納整理機構も令和2年度には解散する予定のため、計画的に滞納額縮減に努めること。
- ② 土地開発基金で取得した土地が活用されておらず、基金運用を妨げているので、有効な土地利用をされたい。



令和元年第3回定例会は、9月4日から13日までの10日間にわたり開かれました。
 村長提出案件は、条例改正2件、財産減額貸付1件、和解1件、請負契約1件、令和元年度補正予算6件、報告1件、平成30年度各種会計決算認定8件の全20議案が提出され、全て原案どおり可決しました。
 一般質問は9人の議員が登壇しました。12Pから20Pに掲載しております。

契約締結

令和元年度河原住宅3号棟改修工事
住宅の長寿命化工事に6,974万円



今回工事予定の河原住宅3号棟

契約の概要

契約目的	令和元年度河原住宅3号棟改修工事
契約方法	条件付一般競争入札(総合評価方式)
契約金額	6,974万円
契約相手	株式会社北陵建設

工事の概要

工事概要	長寿命化改修工事
主な工種	屋上防水改修、外壁塗装 外壁改修(外断熱)
工期	R1.9.13~R2.1.31

令和元年度
補正
予算

衡中北集会所
建設費総額は8,300万円に



建設中の衡中北集会所

各種会計補正額

会計別	補正額	予算額	
一般会計	7,067万円	47億4,376万円	
特別会計	国民健康保険	246万円	5億936万円
	下水道	予算の組替	2億4,230万円
	介護保険	1,728万円	6億2,792万円
	戸別合併処理浄化槽	予算の組替	4,130万円
	後期高齢	82万円	5,142万円

問 衡中北集会所建築請負工事費の増額理由は。
答 当初予算では建築工事の概算設計額7800万円を計上していた。詳細の実設計が決定したので、不足分として500万円を追加補正する。

主な質疑

3号棟を先行する理由
問 河原住宅3棟のうち、最も新しい3号棟の改修を先行させる理由は。
答 国の補助金(社会資本整備総合交付金)を充当して工事を行うが、1・2号棟は内示率の関係上、村の一般財源の持出しが発生する。建築年数もあまり変わらないので、全額補助金で工事できる3号棟を先行させた。

入札の参加業者は
問 今回の入札には、何社が参加したのか。
答 4社が応札した。近年の同種工事のなかでは最多となっている。

冬期間の工期設定
問 屋上等の工事を冬期間に実施することになるが、期間内に完成するのか。
答 五反田住宅の長寿命化工事の実績を踏まえ工期を設定しており、4ヶ月ほどで工事は完了する予定である。

主な質疑

危険ブロックの撤去
問 危険ブロックの撤去費用の助成の詳細は。
答 国の補助事業の対象となるもので、現在3件を実施済みである。さらに3件の事業内示があるので追加する。

農業環境整備支援事業
問 農業環境整備支援事業補助金の増額補正の詳細は。
答 当初予算で700万円を計上しているが、既に476万円が執行されており、さらに今後も要望申請が見込まれるため478万円を増額する。

事業補助金の上限を設定する
問 事業補助金の上限を設定するなど、今後制度見直しの考えはあるのか。
答 現在は補助金額や回数制限はなく、申請の都度2分の1を補助対象としている。特定の方だけが事業対象とならないよう、回数や事業費の上限について今後検討していく。

オリンピック関連事業
問 オリンピック・パラリンピックムーブメントとして約15万円の予算がついているが、詳細は。
答 東京オリンピック・パラリンピックの全国展開事業である。中学生の修学旅行時に、パラリンピック競技に関する研修に参加して、その成果を自分新聞という形にまとめるものである。

有害鳥獣対策
問 有害鳥獣防止施設補助金の増額補正の詳細は。
答 イノシシ侵入防止用の電気柵設置助成として当初予算に110万円を計上しているが、既に14件102万円の申請があり、さらに要望が見込まれるので51万円を増額する。今年度から電気柵以外に防護柵にも助成を拡大している。

財産貸付

ゴルフ場用地として
村有地を減額貸付



花の杜ゴルフクラブ

土地減額貸付の概要

土地の所在地	大瓜字長町2番地ほか28筆 960,711㎡
貸付目的	花の杜ゴルフ場用地
貸付期間	R1.10.1~R6.9.30
貸付相手	アコーディアゴルフ
貸付年額	2,674万円(13%減額)

主な質疑

減額貸付の経緯
問 いつから、どのような理由で土地の減額貸付をしているのか。
答 平成元年から土地貸付を始めた。村民の雇用や税金などの恩恵があるので、ゴルフ場側の要望を受け、11年から貸付料の30%を減額した。21年から13%減額としている。

温泉の村民優待利用
問 花の杜ゴルフ場の温泉は、冬の間、村民が安い入浴料で利用できる。村民からは非常に好評だが、今後も継続してもらえるのか。
答 冬期間の温泉開放は平成11年から実施している。今年も、入浴料金の村民優待利用を村から依頼する予定である。

決算
質疑

お金の 使い道を 厳しくチェック



佐々木金彌委員長

平成30年度各種会計決算審査のため、決算審査特別委員会（委員長 佐々木金彌・副委員長 佐野英俊）が6日間にわたり開かれました。

特別委員会では課長などに質疑を行い、慎重審議した結果「可決すべき」と決定し、9月13日の本会議で議長に報告しました。

主な質疑

農業担い手確保経営強化支援

問 4経営体に補助金が出ているが、その内容は。
答 先進的農業経営の担い手に対し、個人1500万円、法人3千万円を上限に交付している。用途はコンバイン、乾燥機、色彩選別機の購入費である。



補助事業で導入したコンバイン

問 2分の1が補助対象となるようだが、残りは経営体の自己負担か。
答 補助金以外の自己負担分は農協からの融資で対応している。集約化が必要な本村農業では、この制度を積極的に推進していきたい。

放射性汚染牧草の処理

問 事業詳細と処理経費、補助金は。
答 黒川地域環境管理センターでの試験焼却と、すき込みで村保管の全量を処理した。事業費は試験焼却に86万円、すき込みに2138万円である。二分の一が国庫補助金で、残りは震災復興特別交付税で全額措置された。

企業誘致の状況

問 企業誘致と奨励金の交付状況は。
答 60社に企業訪問して働きかけている。

◎平成30年度 企業立地促進奨励金交付状況

企業名	交付額	年数
C K D (株)	3,240万円	1年目
全農物流(株)	987万円	3年目
東横化学(株)	231万円	4年目
合計	4,458万円	



除草が必要な村道

村道の維持管理

問 主な作業内容と経費は。
答 舗装の補修、側溝の土砂上げ、支障木の伐採等が主な作業である。総額で約3200万円、除雪機械使用料を除けば約1660万円になる。

給食センター建て替え

問 現在の給食センターの状況は。
答 老朽化が進み、建て替えるが必要な時期にある。内部の備品も修繕とリースで対応している。

問 建て替えの時期と財源は。

答 防衛9条交付金を基金に5年間積み立て、財源に充てる計画である。令和3年度に実施設計、4～5年度に建築工事の予定である。

ごみ分別収集コンテナの更新

問 ごみ収集用コンテナボックスとネットの用途は。
答 ときわ台南への配置増と破損分の補充等に使用している。

ふるさと美術館

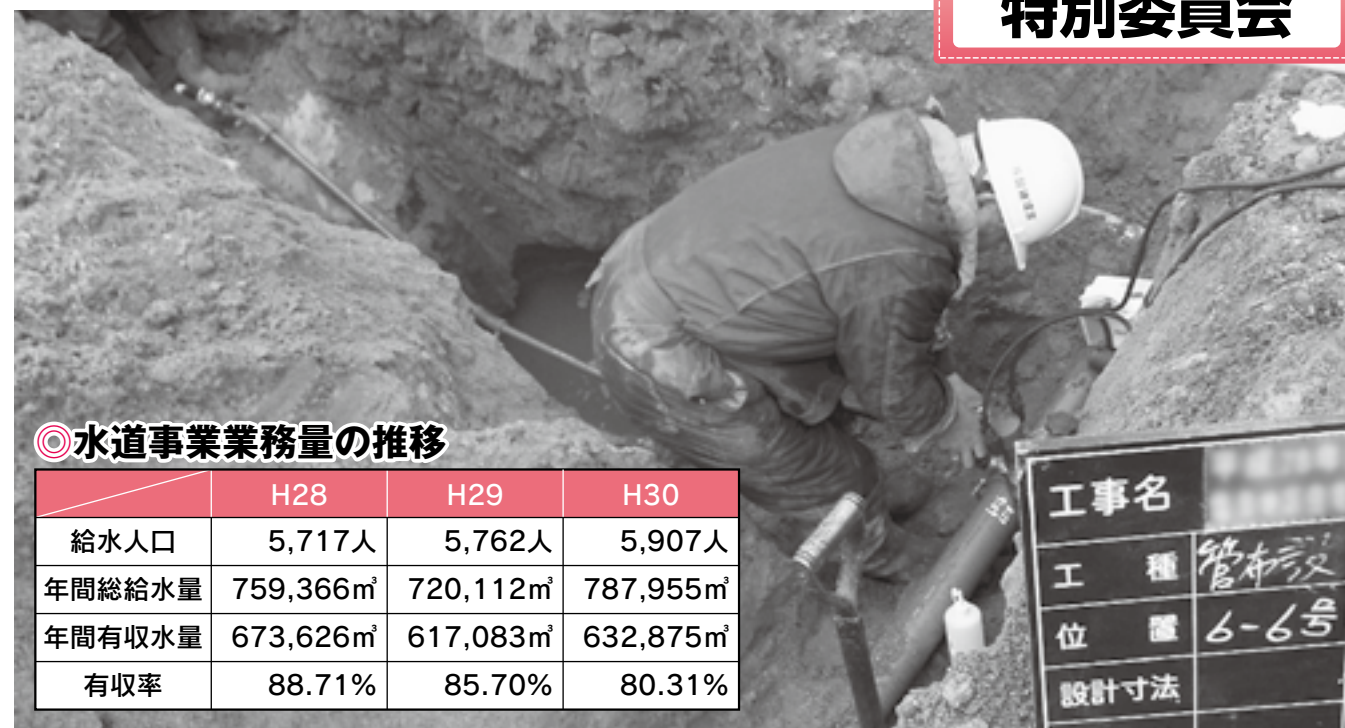
問 年末年始以外は開館しているが、入館者が全くない日もあると聞いている。勤務体制を検討し、休館日を設けてはどうか。

答 月曜に休館する美術館が多いが、ふるさと美術館は毎日開館することで、休館日で他の美術館に行けなかった客層を受け入れられるという思いがある。



資源ごみの分別状況

決算審査特別委員会



◎水道事業業務量の推移

	H28	H29	H30
給水人口	5,717人	5,762人	5,907人
年間総給水量	759,366m ³	720,112m ³	787,955m ³
年間有収水量	673,626m ³	617,083m ³	632,875m ³
有収率	88.71%	85.70%	80.31%

水道管の修繕工事

水道の老朽化対策

問 水道の有収率が去年より5%悪化して80%になっている。一日あたり425tもの水が流出した計算になる。主に漏水が原因とのことだが、水道施設の老朽化対策は。

答 漏水箇所が特定できるところは修繕している。埋設管で、既に整備から40年が経過し、難しい面もあるが、耐震化も含めて更新していく。

※有収率

配水した水（給水量）のうち、料金の対象となった水（有収水量）の割合、95%程度が望ましい。

滞納の現状と対応

問 村税の滞納状況と徴収対策の詳細は。

答 現年度課税分193件、滞納繰越分197件で、前年度より3百万円以上増え、8142万円になっている。

滞納者には、文書催告、電話催告を行い、併せて財産調査を実施、差し押さえ予告、最終的には強制徴収という対応をしている。

臨時財政対策債

問 償還金は、地方交付税でどれほど補てんされるのか。

答 臨時財政対策債は地方交付税を減らすため、平成13年度から始まった。償還金は全額地方交付税経費に算入される。

問 村の起債（借金）を少なくする対策は。

答 臨時財政対策債は限度額が定められ、予算編成するうえで重要な財源であり、財政計画に沿って計上している。

一人暮らし老人等寝具消毒サービス

問 事業対象者と今後のニーズをどう捉えているのか。

答 おおむね65歳以上の一人暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯、寝たきりの方、寝具の衛生管理等が困難な方が対象である。本村も超高齢化社会を迎え、利用・希望される方が増えている。

問 周知・啓発方法は。

答 無線放送や広報紙、民生委員からの情報等で周知していく。

反対

赤間 しづ江 委員

経常収支比率の改善を

健全化判断比率はすべて基準を下回っているが、3カ年の経常収支比率がほぼ100%で、硬直化している。持続可能な財政運営のため、早急に改善策を講ずる必要がある。歳入では、法人村民税は増減があり、安定した財源になっていない。村税等の滞納も増加している。

歳出では、施設の維持管理費用が増えている。競争がない状況での指定管理者「万葉まちづくりセンター」にしっかりとメスを入れるべきだ。再三指摘されてきた村民パスの検証、2年間検討してきた旧幼稚園舎活用も白紙となり、その後進展はない。村長の責任は重大である。

賛成

佐々木 春樹 委員

さらなる財政健全化に期待

財政力指数の推移は、28年度0.69、29年度0.73、30年度0.77と年々改善している。経常収支比率は29年度103%、30年度98%で、努力がみえる。

法人村民税は景気動向等で当然増減がある。その分補助金などを活用し、事業を着実に遂行している。

一般会計委員会採決

賛成9 反対1

認定すべきと決定

特別会計7会計も認定すべきと決定

一般会計

討論 (要旨)

これからの敬老会

問 参加者数の現状をどう捉えているのか。

答 年度ごとに増減はあるが、出席率はおおむね減少傾向にある。

問 敬老会や敬老祝い品を今後どう考えていくのか。

答 今年度は祝い品にアンケートを添付した。その結果を踏まえて、検討していく。



敬老会

令和元年9月定例会提出議案 20件

(条例2件、補正6件、その他3件、報告1件、認定8件)

議案第35号 大衡村心身障害者医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について

議案第36号 行政手続における特定の個人の番号を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第35、36号は県の条例改正に伴う改正

議案第37号 財産の減額貸付について
議案第37号は5ページに掲載

議案第38号 和解することについて

議案第39号 令和元年度大衡村一般会計予算の補正について

議案第40号 令和元年度大衡村国民健康保険事業勘定特別会計予算の補正について

議案第41号 令和元年度大衡村下水道事業特別会計予算の補正について

議案第42号 令和元年度大衡村介護保険事業勘定特別会計予算の補正について

議案第43号 令和元年度大衡村戸別合併処理浄化槽特別会計予算の補正について

議案第44号 令和元年度大衡村後期高齢者医療特別会計予算の補正について
議案第39～44号は4ページに掲載

報告第3号 健全化判断比率並びに資金不足比率の状況について

認定第1号 平成30年度大衡村一般会計歳入歳出決算認定について

認定第2号 平成30年度大衡村国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について

認定第3号 平成30年度大衡村下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第4号 平成30年度大衡村介護保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について

認定第5号 平成30年度大衡村戸別合併処理浄化槽特別会計歳入歳出決算認定について

認定第6号 平成30年度大衡村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

認定第7号 平成30年度大衡村宅地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第8号 平成30年度大衡村水道事業会計決算認定について
認定第1～8号は2～3、6～8ページに掲載

議案第45号 令和元年度河原住宅3号棟改修工事の請負契約について
議案第45号は5ページに掲載

◇9月定例会 採決状況表◇

○賛成 ×反対 議長(細川運一)は採決に加わらない。

議案	小川克也	佐野英俊	石川敏	小川ひろみ	赤間しづ江	佐々木春樹	文屋裕男	高橋浩之	遠藤昌一	佐々木金彌	佐藤貢	細川運一	議決結果(賛成:反対)
議案第35～38号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決(11:0)
議案第39号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決(11:0)
議案第40～44号	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	—	可決(10:0)
報告第3号	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	報告は採決しない
認定第1号	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	認定(10:1)
認定第2～8号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	認定(11:0)
議案第45号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決(11:0)



一般質問

9名の議員が登壇

質問者一覧表

佐々木 春 樹 ・村鳥獣被害対策実施隊との連携強化を
小 川 克 也 ・高校生通学費支援等について
石 川 敏 ・イノシシ対策の抜本的な取り組みを
高 橋 浩 之 ・インフルエンザワクチン接種助成の拡大を ・遊休村有地の活用を図れ
小 川 ひろみ ・シルバー人材センターの考えは ・企業との連携などでICTの活用を
文 屋 裕 男 ・公営墓地の整備を検討してはどうか
赤 間 しづ江 ・子ども・子育て支援事業の状況について
遠 藤 昌 一 ・タクシー利用支援事業について
佐 野 英 俊 ・期待に応える村誌編さんを ・奥田地区内県道整備の要望強化を

議会を傍聴してみませんか

皆さんが選んだ議員がどのような質問・発言をしているのか、村の執行部がどのような施策を考えているのか、是非議場で傍聴してみませんか。

お問合せ先:大衡村議会事務局
☎345-6030
✉gikai@village.ohira.miyagi.jp

次の定例会は
12月4日(水)
からの予定です

※会議録は議会事務局・ホームページで閲覧できます。



小川 克也 議員

高校生の通学費支援等について 教育・経済的立場から公平・平等に検討する

議員 中学校を卒業した生徒は、通学する際の公共交通機関の交通費負担が大きく、それらの負担を軽減するうえで、村では通学費等の支援を考えるべきではないか。

村長 通学する学校も多様化し、公共交通機関を使わずに通学している生徒も多い。通学費助成は一部生徒への支援に限られ、公平性・平等性に欠ける。



役場前バス停から通学する高校生

議員 どの高校を受験するか、ということに関しては様々な。例えば、大学に進むための学力をさらに身につけたい、自分の将来に結びつく学科がある、幼少期から継続しているスポーツでさらに高みを目指すなど、様々な夢を持って最終決定する。

村長 本年度から、高校生以外に小・中学校に兄弟姉妹のいる家庭が多いことから、給食費の無償化を実施した。本来給食費に充てるべきだった金額を、高校入学に備え、計画的に活用していただきたい。

議員 高校生は義務教育ではないが、保護者の金銭的・身体的な問題が山積みだ。公平・平等にいきたる支援として、中学校卒業祝い金の考えはないか。

村長 公平・平等という支援の原則から言えば、祝い金には検討の余地はある。教育委員会等と議論していく。

教育長 経済的に進学が大変なときは、奨学金の活用も検討してもらいたい。

議員 大衡村が掲げる「子育て支援」は、高校を卒業するまで安心して子育てができる充実したものであるべきだ。それが実現できて初めて、「子育て支援日本一の村」と言える。



佐々木春樹 議員

村鳥獣被害対策実施隊との連携強化を 意見交換等で対応する



捕獲されたイノシシ

議員 現在活動している大衡村鳥獣被害対策実施隊（以下実施隊）の皆様には日々の御苦労に感謝しかない。最近、住宅地にも有害鳥獣が出没している。人が出てからでは遅い。早急な対策が必要である。

村長 長野県塩尻市では、わなにセンサーを付け捕獲をメール通知している。日々の見回りが軽減できるので、導入を検討できないか。

議員 実施隊の皆様には、発足以来、年々増加している有害鳥獣の駆除や被害防止活動に日夜ご尽力いただき感謝している。

村長 塩尻市の取り組みについては職員からも復命を受けている。システムの環境整備や構築に対し費用対効果を検証し、検討したい。

議員 実施隊の現状と、報酬額の検討状況は。

村長 隊員は23名。村の非常勤特別職で、報酬は年額で隊長1万円、副隊長8千円、隊員5千円である。また、活動実績に応じて経費を支給している。

議員 郡内の報酬は同額である。県内でも被害の多い県南地域を調査したが、年報酬が高い所は活動実績への経費支給が少額と、一長一短であった。引き続き検討していく。

議員 実施隊からの要望等に、どう対応しているのか。

村長 最近では、捕獲した鳥獣の運搬する際の車両借り上げ料支給の要望があり、支払えるように要綱を改正した。

議員 現在「止めさし」の出来る方が5名しかない。後継者育成が急務である。どの様な取り組みをしているのか。

村長 平成28年度に制定した狩猟免許等取得・更新費補助金交付要綱で、狩猟免許の新規取得や更新に要する経費、鉄砲所持許可の取得及び更新に要する経費について、全額を助成している。他町と比較しても補助は充実している。

議員 広報や農業関係支援制度のお知らせ等で、PRを実施している。

議員 実施隊の方々との対話を重ね、連携強化・改善を図れるような体制づくりが重要ではないか。

村長 意見交換会等を開催し対応していく。



高橋 浩之 議員

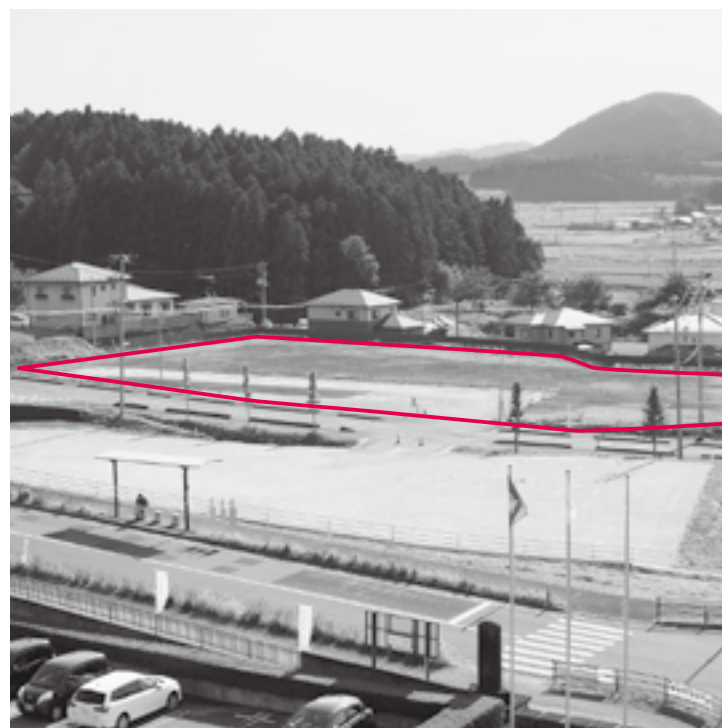
遊休村有地の活用を図れ

転用・譲渡も含めて検討する

遊休村有地を、当初の目的を変更して宅地に転用できないか。また、民間ニーズを調査し、それを活かすための転用手続きを行政が手助けして譲渡できないか。

現状を打破するために、遊休村有地を、当初の目的を変更して宅地に転用できないか。また、民間ニーズを調査し、それを活かすための転用手続きを行政が手助けして譲渡できないか。

議員



どう使う、村有地

土地開発基金で取得した村有地には、遊休化しているところがある。村は子育て支援や定住促進の充実を推進しているが、住みたくても家を建てる宅地がない。新たな定住促進策として、五反田・亀岡地区整備計画や海老沢地区の市街化を推進していく。基金で取得した際に定めた目的での活用ができていない遊休村有地は、宅地転用、あるいは民間への譲渡も踏まえ、土地利用制限解除のための財政的な手続きも検討していく。

村長

インフルエンザワクチン 接種助成の拡大を 財政負担も含めて検討する

村では、インフルエンザワクチンの全額接種助成を65歳以上の方と中学3年生に対して行っている。「福祉に優しい大衡村」らしい政策で、利用者からも好評である。しかし、同じ村民でありながら、各家庭の中心である働き世代には、村から助成がない。特に個人事業者が主である国保加入者に対し、社保・共済組合加入者のように、ワクチン接種の一部助成を図るべきである。

議員

一部助成を行っている健康保険組合等があることは承知している。インフルエンザに罹患すると、学校等では出席停止、社会人なら外出自粛等の制限を受けるほか、医療費の負担も大きい。一部助成を実施するとすれば、どの年齢区分を働き世代とするのか、あるいは乳幼児から74歳までの国保被保険者全員を対象とするのか、それに伴う財政負担等も検証して、総合的に検討していく。

村長



石川 敏 議員

イノシシ対策の取り組みは 住民と村が一体となって臨む



イノシシ侵入防止電気柵

イノシシによる農作物への被害が年々拡大している。鳥獣被害対策実施隊や猟友会など関係機関と連携した組織体制のもとでの取り組みが必要ではないか。

議員

イノシシの生態や行動など、イノシシに関する正しい知識を習得したうえで各種の対策を講ずるなど、住民に対する普及啓発が必要ではないか。

村長

村と関係機関で「大衡村農作物有害鳥獣駆除対策協議会」を組織し鳥獣駆除対策にあたっている。今後も関係団体と連携を取り、村をあげて対策に取り組んでいく。

議員

イノシシに関する啓発は広報紙や農業関係支援制度のチラシでお知らせしている。今後は住民の皆さんにもイノシシの正しい知識を理解していただくような研修等を考えていく。

村長

イノシシに関する啓発は広報紙や農業関係支援制度のチラシでお知らせしている。

◎イノシシ捕獲状況

年度	捕獲頭数
平成28年度	18頭
平成29年度	22頭
平成30年度	30頭
令和元年度	29頭

※令和元年度は7月現在

現在実施隊の方々に必要な設置や見回りの点検確認をお願いしている。設置する箇所が増えてくれば手が回らなくなるとの危険はある。他市で実施している感知センサー等の対策も検討していきたい。

議員

イノシシ侵入防止のため設置しているワイヤーメッシュ柵周辺の草刈り作業や、わなの定期的な見回りに相応の回数や日数を要しており、実施隊や住民の大きな負担になっている。ワイヤーメッシュ柵やわなの保守点検の仕方を検討すべきではないか。

村長

現在実施隊の方々に必要な設置や見回りの点検確認をお願いしている。設置する箇所が増えてくれば手が回らなくなるとの危険はある。他市で実施している感知センサー等の対策も検討していきたい。

議員

捕獲したイノシシの処分は実施隊や猟友会に委ねており村では関わっていないが、村の責任で対処すべきではないか。

村長

捕獲イノシシの処分は、地区にお願いして黒川地域環境管理センターで焼却処理をしているが、村でも環境管理センターに連絡して対応していく。

今は人が住む区域と野生動物が生息する場所の境がなくなっている。イノシシが出てこないように、地域ぐるみで農地管理をする取り組みも重要ではないか。

村長

鳥獣被害対策は災害対応と同じで、自分の農地は自分で、みんなの農地はみんなを守る、村の農地は行政と住民が一体となって守る考えで臨んでいく。



文屋 裕男 議員

公営墓地の整備を検討しては 将来的には必要になる



仙台市いずみ墓園の芝生墓地

議員 少子高齢化、核家族化、宗教との関わり方等、墓地に対する意識は変化し、墓地ニーズも多様化している。後継者がいない、子どもに迷惑をかけたくない、宗教宗派を問わない墓地として公営墓地の整備を求める声は多い。

議員 近隣では一般墓所・芝生墓所・個別集合墓所の3種類が整備されている。本村でも村外から移住された方、独立された方は公営墓地整備の早期実現を願っている。

議員 公営墓地整備にあたり、富谷市ではアンケートから事業を進めた。2千通配布して回答率は58%、回答者の7割が公営墓地は必要と答えた。市民ニーズを踏まえ、墓地整備の方向性を定めている。村でもアンケート調査を実施してはどうか。

議員 墓地は先祖代々受け継がれるのが一般的であったが、核家族化や少子化が進み、墓守が存在しなくなる無縁化や、移住や独立された方の墓の問題は、墓地所有者や管理組合との連携を深めて解決しなくてはならない。将来的に公営墓地の整備は必要になると考えられるが、近隣の運営状況を確認しながら検討すべき問題と捉えている。

議員 広域で公営墓地を整備するのが理想的である。実現に向けて村が先頭に立ち積極的に推進していくべきだ。

議員 意図調査をしたうえで、黒川地域行政事務組合で話題提供し、働きかけていきたい。

議員 新しい住民の方々の意向・動向を確認するためにもアンケート調査は必要だと考える。村単独ではなく広域的に墓地の整備ができないかも検討していきたい。



小川ひろみ 議員

シルバー人材センターの考えは スピードアップして設立を目指す



ごみ出しはとっても大変

議員 働くことで生きがいを得て、地域社会の活性化に貢献しようと思われているシルバー人材センターは、本村では設立されていない。行政が後押しし、自主・自立・協働を促す独自の仕組みが必要である。アンケート調査は実施しているのか。

議員 住み慣れた地域での互助・互助が今後必要であると考えられる。住民主体の公共交通の運行、生活していく中での困りごとサポート（ごみ出し等）の取り組みも考えては。

村長 昨年6月にアンケート調査を実施した。その回答をもとに、設立に向けた手続きの確認・調査等を行っている状況にある。

村長 人材センターでは、登録された方々の知識や経験、技能を活かした業務を行う。本村に適した新たな公共交通網の形成を考え、困りごとにも対応した人材センター設立を目指す。

議員 人口減少が進む中で、自治体の人材不足が見込まれ、行政サービスのデジタル化による効率化が求められる。これからは農業、子供の見守り、鳥獣対策、防災などあらゆる分野での情報基盤を総合的に活用した取り組みが必要である。

議員 ICT企業の中には自治体と協力して、情報システムを構築することに意欲的な企業もある。ICT系の人材育成に力を入れている大学も多い。ICTに精通した企業・大学との連携を図る考えは。

議員 ICT活用をどう考えていくのか。

村長 教育分野では宮城大学・宮城教育大学・東北生活文化大学と連携を行っている。今後、民間企業との人事交流や連携ができるかを見極めていく。

企業との連携などで ICTの活用を 動向を注視し 可能性や効果を検討



赤間しづ江 議員

保護者に寄り添った子育て支援を きめ細かく対応している

議員 少子化、核家族化に加え、団地開発が進む大衡において子育て世帯が増えることで、保護者に寄り添う精神面でのサポートが重要である。

村長 子育てなんでも相談として、月1回開催され保健師、管理栄養士が対応している。身体測定も行い、離乳食の作り方、歯磨きに関することなど保護者の相談に対応している。

健康福祉課長 村社会福祉協議会や「わ・は・わ大衡」との連携、民生委員からの情報を課内で共有し、きめ細かく対応している。

議員 社会問題となっている児童虐待、母親の孤立が原因といわれる育児放棄、産後うつを防ぐために、村ではどのような対策をしているのか。

村長 保健師の新生児訪問、各地区の保健活動推進員による「こんにちは赤ちゃん訪問」を実施している。月齢に応じた健康診査、後期離乳食教室等、母親の体調を確認しながら乳幼児相談を行っている。



開園8年目を迎えた万葉こども園

議員 公立の幼稚園・保育園を廃止して、私立こども園を設置して8年目になる。村の3〜5歳児人口201名のうち26名が富谷市や大和町の私立幼稚園に通っている状況をどう捉えているか。

村長 保護者が入園先を決める条件はそれぞれであり、園の特色、保育料、就労形態による送迎時間など家庭の事情があつて園を選んでいると思われる。

幼児教育・保育の無償化も今年10月から始まるので、今後の推移を見守っていきたい。

議員 こども園開園当初から保護者が要望していた「父母の会」が未だに組織されていない。私立であっても村との関わりは深いので、運営する法人に改善を求めていくべきではないか。

村長 是正を申し入れていく。



遠藤 昌一 議員

タクシー利用支援事業の 地域間格差を是正せよ 新地域交通システムを 整備して対応したい

議員 平成29年度から開始された高齢者等タクシー利用券交付事業では、利用者の多くが公立黒川病院への通院に利用している。自宅から病院への距離とその料金は様々で、利用者からは是正のため遠距離料金割増支給を求める声がある。



利用券は介護タクシーにも使えます

村もそれは認識しており、平成30年2月の議会全員協議会で村長は、大森・奥田・衡東・藤崎等の遠隔地利用者に対する増額を真剣に検討すると発言したが、その後、1年以上経過しても検討経過すら報告がない。増額はしないのか。

◎高齢者等タクシー利用助成券 申請受付状況

平成31年3月31日時点

対象内訳	対象者数	申請者数	申請率
80歳以上高齢者	485人	197人	40.6%
70歳以上一人暮らし	65人	15人	23.1%
介護認定	27人	20人	74.1%
障害者手帳所持者	177人	15人	8.5%
合計	754人	240人	31.8%

◎利用における改善策

- ・一回の乗車での利用制限撤廃
- ・介護タクシーへの助成拡大

村長 タクシー利用券の利用者からは、この事業はおおむね好評と聞いている。しかし、同じ目的地でも居住地からの距離が違つたため、料金が違うことへの不公平感があることは伺っている。

目的地が特定の場所1ヶ所だけであれば、明らかに地域差が出てしまうが、タクシー利用券は目的地を指定していない。特定地域で利用券を増減させることは新たな不公平感を生んでしまうので、当面は現行の形態で事業を行いたい。

議員 利用者からの要望に100%答えろとは言わないが、全協で村長は、改善改良・日々試行と発言した。改善を進める意志はないのか。

村長 一回のタクシー乗車での利用制限の撤廃などの改善は行つてきた。シルバー人材センターの活用等も検討して、村民パスやタクシー利用券などを包括した、新地域交通システムの方向性を1年以内に考え、構築していきたい。

広報広聴

行政視察
研修報告

視察年月日：令和元年7月11日～12日



議会広報クリニック

◎議会広報クリニックとは

全国町村議会議長会が主催する短期セミナー。広報の専門家が、クリニックを希望する町村の議会広報について課題・改善点を分析し、分析結果について受講生の前で講評する。

今回の北海道・東北ブロック研修には26町村が参加した。



クリニックを受けた6町の広報紙

◎議会広報クリニックの研修内容

(クリニックで示された基本原則、改善点)

1	あくまで読者（住民）のために
2	議会の広報であることを意識する
3	デザイン的な見やすさの追求
4	議会広報への住民参加を拡充する
5	議会としてのアクションが見える紙面に
6	議会広報と各種メディアの連携

◆調査を終えての所感・意見

今回の研修は、議会構成が変わったことに伴い、読みやすい・読んでもらえる議会広報の基本について勉強なおすことを目的とした。

研修では、クリニックを希望した6町村の議会広報を題材に、紙面のどこに問題があって、どのように改善すべきかが具体的に示されたので、本村の議会だよりとも比較が容易で改善がしやすく、とても参考になった。

おおひら議会だよりが、より一層手にとって読んでもらえるものになるよう、小学5年生でも十分理解できる・読みやすい編集を心がけ、議会・議員活動の見える化を図っていく。



佐野 英俊 議員

期待に応える村誌編さんを
記録の調査収集に努める

議員
村誌の増刊は、昭和58年発行後の歴史財産の整理であり、大きな期待が持たれている。
村誌編さんの基本方針と進捗状況は。

村長
昭和58年以降の記録を保存し、村制施行百四十周年が百五十周年に発行を考え、主要事業119項目を選択し、37事業の調査収集を進めている。

議員
村誌の増刊は、大きな発展・変貌を遂げてきた史実を著実に捉えた記録を後世へ伝承すべきと考える。
職員間における意思の疎通は十分に図られている。

村長
事業に携わった各課の職員と連携を取りながら進めている。

議員
村職員OBや歴史を知る多くの方々の声を聴き、編さんに取り組む考えは。

村長
調査収集作業がおおむねまとまった段階で、村民の方にも当時の状況を聞き、編さんに取り入れる。

議員
編さん作業を加速させるべきではないか。

村長
他課の職員とも協力しスブードアップする。



事業再開が待たれる奥田中沢地区

奥田地区内県道整備の要望強化を
事業再開に向け要望していく

議員
奥田地区内の県道は、重要路線とし村道から県道に所管替えされたが、旧態依然の未整備で、集落西側への道路新設は忘れられた計画ではないかと懸念している。
経過を掘り起こし、計画化を県に強く要望すべきでは。

村長
平成7年度に県道に昇格し駒場側を整備したが、必要な用地に境界が未確定の土地があり、平成14年度から事業は休止した。
県は、交通量の増加と通勤や物流から重要路線とし、事業再開の優先順位や用地取得の実現性について総合的に判断し決定する考えで、継続的に要望していく。

議員
集落西側への整備計画が宙に浮くことなく、生きていくことで安心した。
協力が得られる用地から買取を進めるよう、強く要請すべきではないか。

村長
県に対する要望不足を反省し、今後努力していく。

視察年月日:令和元年7月24日～26日

視察年月日:令和元年7月2日～4日

長野県 塩尻市

センサーを活用した鳥獣対策



- ◎対象地区と被害拡大の背景
北小野地区（山間地）。住民の高齢化⇒耕作放棄地の増加⇒鳥獣の生息⇒農作物被害拡大
- ◎被害対策への取り組み体制
現地確認対策会議（市・猟友会・地区住民等）を設置し、地区民一体の体制を構築した。
- ◎捕獲検知センサー付きわなの設置
センサーが捕獲を感知すると、ネットワークで登録者の携帯電話にメールが送信され、猟友会による捕獲が行われる。

◆調査を終えての所感・意見

検知センサー導入によりイノシシの出没時間と場所が特定され、わな等の定期的な見回りが不要になり、猟友会の労力削減、効果的な捕獲が可能になった。捕獲して個体数を減らすことが、出没数の減少、ひいては農作物被害の減少につながる。農業者だけでなく、地域が一体となった被害対策の実施体制を作ることが重要だと感じた。

福祉でまちづくり宣言

- ◎健康長寿のまちづくり宣言
宣言文は、行政ではなく町民が実行委員会を組織して起草している。
宣言に基づき、町ぐるみで地域包括ケアシステムを構築し、様々な施策を展開している。
- ◎総合ケアセンター
町の総合的な福祉の中心を担う施設で、介護保険、高齢者福祉、障がい者福祉、生活保護等の各種手続き、相談を行っている。
センターには国保病院・老健施設が隣接し、相談からサービスまで一体的に対応している。

◆調査を終えての所感・意見

宣言以前に制定した「健康長寿のまちづくり条例」でも、町と介護サービス業者のほかに「町民の責務」が明確化されており、住民の福祉への意識が極めて高い。地域の支え合い活動を展開する「在宅福祉ネットワーク」も住民が主体的に関わっている。福祉行政への住民からの対応窓口を一本化し、国のモデル事業へ積極的に手を挙げて予算を確保する取り組みなど、とても参考になった。

北海道 本別町



町長から直接説明を受ける委員

施設一体型の小中一貫教育

長野県 佐久穂町

- ◎佐久穂小学校・佐久穂中学校
町内の小学校4校・中学校2校を統合して開校。
令和元年5月現在で小学生506名、中学生231名が在籍している。
- ◎小中一貫教育の特色
在籍する小中学生全員を育てる体制を整備し、小中9年間を通じた教育を実践する。
- ◎キャリア教育（ふるさと学習）
佐久穂のひと・もの・ことを産学官連携の体験学習で学ぶ。



校舎の全長は200mに及ぶ

◆調査を終えての所感・意見

佐久穂小学校・中学校は一体型で建築され、校舎内装には町内産のカラムツをふんだんに使用している。図書館は小中別々に整備され、蔵書は3万冊を数える。1町1校であり、校舎や校庭・敷地の清掃管理も行き届き、町の地域全体で子どもを育てる意識が高い。町の予算も教育費が一番多くを占め、教育にかかる熱意がうかがえる。

北海道 音更町

短期大学と連携し介護士育成



- ◎ふるさと介護福祉士育成支援事業
介護福祉士資格取得のため帯広大谷短期大学の社会福祉科介護福祉専攻へ進学、または在学する学生に対し補助金を交付する。
卒業後に十勝管内の高齢者施設等に勤務することが交付の条件となっている。
- ◎音更町・短大包括連携事業
高齢者向け集合住宅に介護福祉専攻の学生を入居させ、定期的に会合を行っている。
大学図書館の開放や地域サロン活動支援なども実施している。

◆調査を終えての所感・意見

地元短大との連携による介護福祉士育成事業など、将来に向けた福祉施策が実現できている。老人会の組織率も高く、健康教室など住民参加型の活動も多い。
町内に基幹工場を有する「よつ葉乳業」の商品を前面に打ち出して獲得した、年間4億円にのぼるふるさと納税を活用し、町では様々な施策を展開している。

調査年月日：令和元年8月2日

調査年月日：令和元年8月5日

万葉クリエートパーク遊具更新状況

◎年度別の遊具更新工事状況

平成28年度修繕工事	2基	972万円
平成29年度修繕工事	2基	2,268万円
平成30年度修繕工事	3基	4,720万円
工事済み小計	7基	7,960万円
令和元年度工事予定	8基	5,200万円
令和2年度以降予定	7基	
合計	22基	



老朽化が進む遊具

◆調査を終えての所感・意見

万葉クリエートパーク内の遊具は、平成15年度から設置されているが、木造遊具については老朽化により年次的に修繕工事が実施されている。

遊具の維持管理には多額の費用負担が発生すると見込まれるため、今後は利用頻度等を考慮して、一部の遊具は廃止も含めた検討が必要である。

学校教材備品の購入状況

(大衡小学校・大衡中学校)

◎平成30年度小学校備品購入状況

体育館用備品他3件	跳び箱等	502万円
コンピューター	PC教室用36台	1,215万円

パソコン教室の購入事業で更新された旧パソコン備品一式が、そのまま保管されている。購入契約時に廃棄処分をすべきではなかった。

体育館の運動用具についても、備品管理が適切ではなく、今後改善を要する。



廃棄されていない旧パソコン

◎平成30年度中学校備品購入状況

校務支援システム	1式	162万円
楽器	2台	89万円

以前に体育(武道)の授業用に購入した剣道用具が、選択種目の変更により、現在は全く使用されていない。今後の活用方法について検討を要する。

小・中学校とも各種の教材備品については、必要があり購入したとしても、その後の授業内容の変化等により使用されない物品もあると思われる。学校備品類の物品管理については、適切に処理されたい。



更新された楽器

障害者福祉施設の現況

(わ・は・わ大衡)

◎令和元年度の事業ごとの契約状況

() 内の数字は村民の契約者数

	生活介護 契約者	就労B型 契約者	短期入所 契約者	日中一時 契約者
4月	13 (2)	18 (6)	32 (5)	6 (6)
5月	14 (2)	18 (6)	32 (5)	7 (7)
6月	14 (2)	16 (4)	33 (5)	7 (7)

※就労B型の契約者が6月に減少したのは、契約していた村民2名が一般就労したため



作業の説明を受ける委員



施設の全景

◎隣接空き地(50a)の活用

施設に隣接した村からの借地は、将来的にグループホーム用地に使う予定である。

現在の計画では薬草園を整備予定だが、調査の結果、土質が悪いことが判明した。薬草園ではなく、樹木を植える案も検討中。

◆調査を終えての所感・意見

平成30年3月の開所以来、契約者数はおおむね計画通りに増加している。

事業所の職員は若手が大半を占め、経験はこれから積むことになる。3~4年で人事異動があり、契約者との信頼関係をいちから築かねばならない。

事業所における看護師の確保・育成が現在の課題となっている。

空き家対策について

◎空き家等の状況(令和元年7月末現在)

1. 調査対象の設定
主に水道の開栓状況を基に37箇所を調査。
2. 調査の方法
企画財政課職員が現場を調査、結果は写真管理。
3. 調査の結果
村内に17箇所の空き家を確認した。

◎今後の空き家対策

1. 「空き家バンク」の整備
来年度予定のホームページのリニューアルに併せて、空き家バンクを整備したい。
2. 空き家等対策基本条例の整備
データの収集・管理や特定空き家等への指導のための条例を空き家バンクと並行して策定。

◆調査を終えての所感・意見

今回の調査では、主に水道の開栓状況を基に調査対象を選考したが、次回以降は区長など、地域の事情を良く知る方々の声を基に調査を実施すべきである。

空き家バンクと空き家基本条例の整備は、今後の村の重要課題なので、委員会としても継続的に調査・研究・提言をしていく。

第9回 住民と議会との懇談会

～ 住民から見る大衡村 ～

今回の懇談会は、議員が2班に分かれて、4会場で開催します。土曜の夜、みんなで村についてお話をしませんか。

◇懇談会の日程◇

月 日	【1班】行政区・担当議員		【2班】行政区・担当議員	
11月2日(土)	駒場集会所 (駒場・大森・奥田)	小川ひろみ	大瓜上集会所 (大瓜上・大瓜下・松原)	高橋 浩之
		小川 克也		佐野 英俊
		石川 敏		赤間しづ江
11月9日(土)	衡下集会所 (衡中・衡中東・ときわ台 衡中北・衡下)	佐々木春樹	蕨崎集会所 (衡上・蕨崎・衡東)	文屋 裕男
		遠藤 昌一		佐々木金彌
		細川 運一		佐藤 貢

開催時間は2日、9日とも**午後6時30分～午後8時30分**

◇その他◇

- ・事前の参加申込みは必要ありません。
- ・年齢制限はありません。全年齢大歓迎です。
- ・どの会場にもご自由に参加できます。

大勢の皆さんのご来場をお待ちしております。

出前講座型の懇談会も企画しています

村内各地で活動している団体（概ね5名以上で活動しているグループ）の皆様のもとに、議員が出向き、意見を交換したいと思います。

懇談を希望される団体は、ぜひ議会事務局までご連絡をお願いします。

委員会 Report

旧大衡幼稚園舎の現地調査



管理が不十分な旧幼稚園舎

広報広聴

調査年月日：令和元年9月6日

◎幼稚園閉園後の経緯

H24. 3	大衡幼稚園閉園
H29. 4	庁内検討委員会設置 (副村長、課長等8名で構成)
H29.11	全22項目の素案提示
H30. 1	検討委員会設置 (募集に応じた村民5名で構成)
H30. 3	委員会提言書を提出
H30. 8	万葉まちづくりセンター及びくろかわ商工会から借用申出
R 1. 5	両団体から借用取り下げの申出

◆調査を終えての所感・意見

園舎は外観からでも老朽化が顕著になっている。玄関前のマンホールは蓋が無く穴が開いた状態であった。周辺は草がのび荒れ放題になっていて、周辺住民の方々に迷惑をかけてしまっているの、早急に対処すべきである。園舎内は段差があり、配管等も老朽化している。

今後は、これまで以上に検証を進め、今後の方向性を見出してほしい。

議会活性化

◎特別委員会の開催状況

開催日	審議内容
R1. 6. 6	正副委員長の互選 今後の活動方針の協議
R1. 8. 8～9	ICTセミナー参加
R1. 9.26	ICT化についての討論 今後の活動方針の協議
R1.10.16	大和町議会の現地調査



大和町でのタブレット研修

◆調査を終えての所感・意見

議会活動のICT化を優先課題に定め、主にタブレットの導入について調査・研修を実施している。実際にタブレットを使用するセミナーに参加し、運用を実地で学んだほか、既にタブレットを導入した議会への現地調査を行い、意見交換を実施している。



大衡中学校 2年1組
いしかわ ちひろ
石川 智大さん

僕の将来

僕は、建築の仕事をやりたいです。小さい頃から絵を書くことが好きで、設計が面白いと思ったからです。

建築の仕事は単に家を建てるだけでなく、お客様の強い想いを受け止め、満足や感動を与えることです。

今は数学や理科の勉強を一生懸命に頑張っています。高校、大学と進学し、勉強を続ける予定です。

将来は「一級建築士石川智大」の作品で、たくさん家族に笑顔を届けます。

将来の



大衡小学校 6年2組
はやさか だいき
早坂 大樹さん

ぼくの夢

ぼくの将来の夢は、診療放射線技師です。X線や放射線を扱う仕事です。

MRやレントゲン検査などで体の内部をさつえいして、がんなどの病気を見つけて、この仕事をするためには、たくさん勉強をして国家資格に合格する必要があります。診療放射線技師になって、人を助け、安心させ、元気にすることがぼくの夢です。

出会いに感謝

田口 清さん

私は、新潟県糸魚川市の出身です。

長男が喘息のため、空気の良い所にこの医師の勧めで、約40年ほど前、横浜から大衡村に引っ越してきました。おかげさまで、3人の子ども達は元気に育ち、巣立っていくことができました。

今は妻が家庭菜園や花を育て、その手伝いで水やりをしたり、畑を耕しています。

健康や交流のため、支え合いや代謝アップ教室、男の料理教室などに参加しています。このような行事に参加することで、色々な地域の人達と知り合うことができました。

冬には花の杜温泉で知り合った人達と話が出来るようになり、楽しく過ごしています。

とびく輝



あがき



スポーツの秋と意気込んでジョギングを始めましたが、体力の衰えを実感し複雑な思いの日々。

しかし、先日行われた大衡中学校校体育大会で、子供達の成長した姿を拝見し、やる気と元気をいただきました。これを、議員活動に活かし村政発展のため、尽力してまいります。

本格的な寒さに向かう季節ですが、皆様の稔り多き秋をお祈りしております。

小川 克也

大衡村議会

広報広聴常任委員会

委員長 小川ひろみ

広報分科会

会長 佐藤 貢

副会長 赤間しづ江

委員 小川 克也

〃 佐野 英俊

〃 石川 敏

発行責任者

議長 細川 運一